

る。運営は、実行委員長、副委員長等全て専門3年の学生が行っている。また、9月1日から5日まで、虫歯予防講演を4つの小学校と3つの中学校で行っている。

今後、他の年度の無歯科医村無料診療活動報告を行う予定である。

22) 日本歯科医史学会理事長谷津三雄先生の学位論文及び指導論文について

Doctor thesis Mitsuo Yatsu the chief
Director of Japan Society of Dental History
and his instruction theses

日本大学歯学部	工藤 逸郎
	三宅 正彦
	見崎 徹
	小室 歳信
日本大学松戸歯学部	渋谷 鉦
	山口 秀紀
	石橋 肇
	加來 洋子

Itsuro Kudo, Masahiko Miyake, Tooru Misaki,
Toshinobu Komuro, *Nihon University School of
Dentistry*
Koh Shibutani, Hidenori Yamaguchi, Hajime
Ishibashi, Yohko Kaku, *Nihon University School
of Dentistry at Matsudo*

日本歯科医史学会理事長谷津三雄先生は平成21年8月8日腎不全のため、81歳の生涯を閉じられた。先生は本学会鈴木勝理理事長に引き続き、昭和43年より昨年8月までの約21年余の理事長職を務められ、本学会の充実発展に大きな足跡を残された。その他先生は歯科麻酔学の権威として日本大学松戸歯学部歯科麻酔学講座教授、病院長として大きな実績を挙げておられる。

私は2010年4月の日本歯科医史学会々誌に追悼文を掲載させて頂いたが、先生がインターン終了後、昭和29年8月より国立東京第一病院外科研究生、35年2月より国立東京第一病院麻酔科医員（厚生技官）として、全身麻酔と肝機能について研究を続けられており、昭和32年4月より日本大学歯学部兼任講師として口腔外科学教室（主任新国俊彦教授）に所属され、主として口腔外科の全身麻酔関係の指導をされていた。

私は昭和33年3月日本大学歯学部を卒業し、7月から口腔外科の副手、助手として勤務し、谷津先生の旧制学位の所得に関して新国教授命を受けて論文作製に関与することとなった。私は昭和37年4月から、兄弟教室の千葉大学医学部歯科口腔外科教室に出向を命ぜられたので、約5年弱若き日の谷津先生と論文作製のため行動をとともにすることになり、先生の学位論文の他、その他の教員の学位論文、副論文の作製に手伝った経験は強烈な印象を持っており、ある面では医学に対する真摯な対応の原点を教えて頂いたと思っている。

先生の学位論文のテーマは、全身麻酔の臨床的研究—特に肝機能を中心として—であり全身麻酔と肝機能の関係について国立東京第一病院外科研究生、麻酔科医員の時から自分の研究テーマとして取り組んでおられた。昭和33年3月に私が歯学部を卒業し、その一年前から先生は歯学部兼任講師として口腔外科に所属され、その際によりやく国立東京第一病院の全身麻酔4000例をまとめる時期が来ていたので、私もその論文作製に関与して手伝うことになった。

今回は主として谷津先生の学位論文について報告し、更に4名の歯学部教員、2名の大学院生その他先生が指導された副論文についてその概要を報告する。

全身麻酔の臨床的研究—特に肝機能を中心として—谷津三雄、指導外科医長小原辰三博士（国立東京第一病院中央手術室麻酔）

目次 第1章 序論、第2章 研究対象および研究方法、第3章 全身麻酔の統計的観察、第4章 考按、第5章 総括並び結論（参考文献）全36ページ

本論文は、日本大学医学部外科今尾文二教授の下に提出し、昭和35年12月19日日本大学医-第1392号を以て医学博士の学位を授与された。

その他の歯学部口腔外科の教室員に対する学位指導論文（主任新国俊彦教授の依頼）は次の4編である、

1. 肝障害家兎作製に関する実験的研究
2. 全身麻酔に関する実験的研究—とくに血清膠質反応に及ぼす影響について
3. 全身麻酔に関する実験的研究—とくに血清蛋白動態に及ぼす影響について
4. 全身麻酔に関する実験的研究—とくに血清

cholinesterase 活性値に及ぼす影響について

以上の論文も日本大学外科今尾文二教授の下に提出しいずれも医学博士の学位を授与された。

その他新制の大学院生に対する学位論文も主任新国教授の依頼により論文が作製された

1. 歯槽膿漏の研究—特に全身機能を中心として

2. 歯科外来患者に対する全身麻酔の研究—とくに Fluothane, Nitrogen Oxygen 併用麻酔の臨床的価値について

以上2編は新国教授の指導で歯学博士の学位を授与された。

その他副論文として8編の論文が作製されており、今回は谷津先生の21代から30代に変わろうとする業績の一端を示したい。

23) 谷津三雄著 「麻酔学 改定2版—1959—」について

“Anesthesiology Revision 2nd Edition in 1959”
written by Mitsuo Yatsu

日本大学松戸歯学部 ○山口 秀紀
石橋 肇
渋谷 鉦
日本大学歯学部 工藤 逸郎

○Hidenori Yamaguchi, Hajime Ishibashi, Koh Shibutani, *Nihon University School of Dentistry at Matsudo*
Itsuro Kudo, *Nihon University School of Dentistry*

日本歯科医史学会前理事長、谷津三男氏は昭和28年3月日本大学医学部を卒業、同年4月より1年間大蔵省印刷局東京病院にて実地修練を行った後、同29年8月より国立東京第1病院外科研究生となり、さらに同32年4月からは日本大学歯学部兼任講師を務めている。同35年2月には国立第1病院麻酔科厚生技官となっているが、その1年前の昭和34（1959）年に氏によって書かれた著書に「麻酔学 改訂2版」がある。

本書は縦24×横17cm大、B5版、全102ページ、ヨコ書きの冊子である。オレンジ色の表紙には谷津氏自身と思われる眼鏡をかけた医師が持つマスクから出た吹き出しの中に「麻酔学 改訂2

版—1959—」と書かれ、著者は「日本大学講師（麻酔学）、国立東京第一病院中央手術室麻酔 谷津三雄」となっている。また表紙絵は前述の医師の他に、ボンベや蛇管、ケーシー型白衣を着た医師と思われる男性および看護師と思われる女性が描かれている。我々が資料としたものには、「謹呈 工藤先生 著者」と直筆で書かれており、当時日本大学歯学部において共に働いていた工藤氏に送られたものであることがわかる。

表紙をめくると、いきなり麻酔総論から始まっており、本書には目次の項が設けられていない。そこで本書の内容の概略を知るため記載内容から目次立てをしてみると、

麻酔総論 1～16 ページ：歴史、麻酔の目的—新しい麻酔の概念、麻酔学の分野、手術時麻酔に於ける麻酔医の責、Operative risk（危険）

麻酔薬剤編 17～25 ページ：基礎麻酔剤、局所麻酔剤、揮発性麻酔剤、ガス麻酔剤、筋弛緩剤、血圧下降剤（低圧麻酔）、人工冬眠用カクテル剤

全身麻酔編 26～40 ページ：総論、吸入麻酔法の種類、炭酸ガス吸収法、気管内手技、笑気の知識、調節呼吸、静脈麻酔法、直腸麻酔法、低血圧麻酔法、人工冬眠

局所麻酔編 41～45 ページ：局所浸潤麻酔、表面麻酔法

麻酔合併症編 46～56 ページ：呼吸異常、自律神経反射、不整脈、鬱熱現症、その他の合併症、術後合併症

麻酔各論編 57～69 ページ：小児麻酔法、老人麻酔法、腹部手術に対する麻酔法、頬部手術時の麻酔法、頭頸部手術に対する麻酔法、甲状腺疾患を有する場合の麻酔、糖尿病患者の麻酔法、心疾患者の麻酔法

全身管理編 70～82 ページ：昏睡患者処置法、蘇生術、呼吸系蘇生術、心臓蘇生術、新生児蘇生術、輸血及びその反応、注輸法、輸血の反応、吸入療法

基礎麻酔表 71 ページ

「附」2.3の救急薬品に就いて 72～98 ページ

I. 強心（利尿）剤、II. 不整脈治療剤、III. 循環ホルモン剤、IV. 血管収